北区研修資料６

北区自治協議会（第６期）を振り返って

北区自治協議会会長　倉島　敏弘

１　はじめに

新潟市に区自治協議会が発足して 10 年が経過し、11 年目からのスタートとなった第６期では、引き継がれた地域課題に継続的に取り組み、未来を見据えた活動を活発化するとともに、区自治協議会そのものの振り返りも行いました。

振り返りの中で、月一回の定例会であることを疑問視する声や、委員の選出区分や人数配分、任期の見直しを求める声、選出母体へのフィードバックの必要性など区自治協議会を活発にしていくためのさまざまな意見があがり、「新潟市区自治協議会のあり方検討委員会」へ報告されました。

平成 30 年３月、各区の意見をとりまとめた同会より、「これまで以上に区の実情に合った区自治協議会としていく」という方向性が示されました。

これを受け、今後の北区自治協議会の方針を検討するため、平成 30 年９月に北区自治協議会運営検討特別部会を設置し、委員の再任方針についての検討を行い、北区独自の再任方針を決定しました。

また、第６期の部会は、より活発な活動の場となるようこれまでの編成を見直し、総務部会、地域づくり部会、福祉教育部会、自然文化部会の４部会で活動し、多岐の分野にわたる計８つの区自治協提案事業を実施しました。

これらの活動や思いを、次の第７期北区自治協議会に引き継いでいただくため、第６期の詳細な活動成果や課題などについて報告いたします。

２　取組内容・成果・課題

(1)　全体会について

ア　運営検討特別部会の設置と再任方針の決定

来期から、区自治協議会が地方自治法（第 252 条の 20）の規定から外れ、各区の実情に応じて委員の再任期限を決められるようになったため、北区自治協議会の方針を検討する北区自治協議会運営検討特別部会を設置しました。

当部会で検討された案の中には、委員任期を延長する案もありましたが、委員メンバーが固定化してしまう弊害を懸念する声や、地域に関わり活動する人材を引き続き多く育てていけるようにすべきとの声が多くあがりました。

結果、市の附属機関等に関する指針より、委員資格によっては短い任期に設定された、現行の再任方針を継続していく方針案にまとまりました。この方針案は、平成 30 年 10 月の区自治協議会の本会議において、全会一致で認められました。

イ　北区自治協議会委員研修会の実施

平成 29 年度の委員研修会では、ラムサール条約への登録を目指す福島潟に関わる活動の参考とするため、ラムサール条約登録湿地の佐潟を視察し、ラムサール条約へ登録されるための条件や、その先例である佐潟の活用の現状について、担当職員から詳しく話を聞きました。

平成 30 年度は、北区の賑わい創出と交流人口の増加、人口減少対策を検討するため、東港へのクルーズ船寄港状況や新設された新潟食料農業大学胎内キャンパス、移住者が経営する胎内市内の農家レストランを視察しました。

変化し続ける港や大学の現場を見て、担当者や実際の移住者から話を聞くことにより、地域課題解決に向けた今後の活動に活かせる知見を得ることができました。

(2)　部会・提案事業について

ア　総務部会

総務部会は、区自治協議会全体の運営、協議内容の検討、区自治協議会だよりの編集を所管する部会です。

全体会の内容を事前に確認し、より活発な区自治協議会とするにはどの様にすべきか検討を行いました。また、区自治協議会をより多くの方に知っていただけるよう広報紙の編集を行いました。

平成３０年度の市政世論調査の結果において、「区自治協議会の名前も活動内容も知っている」と答えた北区民は 18.2%（市全体の 12.3%）となっており、活動内容まで含めた認知度は、８区中一番高くなっています。一方で、「知らない」と答えた区民は 48.2%（市全体の 49.9%）となっており、引き続き区自治協議会の活動を広報していくことが必要です。

イ　地域づくり部会

地域づくり部会は、賑わいづくり、公共交通、地域産業、人口減少、空家活用、防災分野を所管する部会です。

（ア）　羽越水害復興 50 年記念事業

下越水害・羽越水害から 50 年目を迎えた平成 29 年６月に、羽越水害復興 50 年記念事業として、「北区治水シンポジウム～伝える記憶　つながる未来～」を開催し、記録映像の放映やパネルディスカッションにより、過去の水害の記

録や記憶を次の世代に伝承しました。また、「救援物資の仕分け・炊き出しワークショップ」を行い、実際に発災した時の支援体制について学びました。

その他、巡回パネル展、小中学生向け防災教育などを実施するとともに、これらの実施状況をまとめた冊子を発行し、貴重な水害映像を DVD 化しました。

この DVD を活用し、継続的に次世代へ水害の教訓を伝承していくことが必要です。

（イ） 松浜海岸の環境整備と地域活性化事業

平成 29 年度には、松浜海岸周辺住宅への飛砂被害防止と、市民文化遺産である「ひょうたん池」の埋没を防ぐため、松浜砂丘地にアキグミ 1,300 株を植えました。植樹には、松浜地域の住民や小学生ら約 200 名が参加し、翌平成 30 年度以降も、区づくり事業として継続的に取り組む事業に発展しました。

毎年植樹し増やした苗木が成木となり、飛砂防止能力を発揮するまで、育成を見守る地域活動についても継続していくことが必要となっています。

（ウ） ノーザンミュージックフェスティバル 2018

地域の活性化と音楽による賑わいの創出を目的に、「ノーザンミュージックフェスティバル 2018」を開催しました。事業の企画、運営などを北区文化会館と連携し、地域の関係団体を加えた実行委員会において意見交換を重ねながら一体となって事業を進めました。

当日は台風接近のため、野外での催し（ライブや農産物販売等）は中止されましたが、屋内では、プロのミュージシャンの演奏や区内の神楽舞、少年少女合唱団等の発表が行われ、区内外から幅広い年齢層の聴衆が集まり、北区を大いに盛り上げるイベントとなりました。

アンケート（回答者 78 人）では、「非常に楽しかった」と「まあまあ楽しかった」を合わせると 96.2%という結果となりましたが、タイムスケジュールの周知方法など、改善すべき点についても指摘いただき、今後同様のイベントを開催する際の課題となりました。

（エ） 地域防災力向上事業

地域における防災力の向上を目的に、災害時に各地域で活躍できる人材の育成と、区民の防災意識の向上を図るため、各種事業に取り組みました。

人材の育成としては、防災士養成講座の周知と受講補助を行い、区内全ての地域で１名以上、総勢約２０名の防災士を養成することができました。

また、防災士が実際に地域で防災リーダーとして活躍していくためのフォローアップ研修では、「救援物資の仕分け・炊き出しワークショップ」等を行い、防災士と地域の繋がりを強化することができました。こうしたフォローアップ研修は、防災に関する知識や技能を継続保持するため、定期的な開催が必要で

あり、平成３０年度は、活動フィールドの整理や情報交換を含め、内容を充実させながら開催してきました。

次年度から区企画事業として、防災士が各々の地域で活躍していけるよう支援が継続されることとなりました。

ウ　福祉教育部会

福祉教育部会は、子育て、教育、医療・保健、福祉分野を所管する部会です。

（ア）　「命」の教育事業

子どもの育成環境の改善を図るため、「福祉教育部会だより」を作成し、区内小学生の各家庭に毎月１号、全６号を配付しました。命の大切さをテーマに、子どもたちの心身を健やかに育むために必要な配慮や、家庭での教育について読みやすくまとめ、忙しい親世代でも難なく読めるチラシとしました。

アンケートでは「とてもためになった」という感想がある一方、「ゴミになるので配付物はやめてほしい」との意見もあり、興味のない保護者への働きかけの難しさを感じました。諦めずに、さまざまな形で働きかけ、届けていくことが、子どもたちが安心できる環境づくりのために、今後も必要であると思われます。

（イ）　区民の一体感醸成プロジェクト―みんなの区役所づくり―

平成 30 年度は、北区役所新庁舎の共有スペースについて、住民の視点から検討するワークショップを開催しました。新潟医療福祉大学と連携して同大学教授らをファシリテーターに、公募メンバーを含めた約 10 名で、交流スペースのレイアウトを検討しました。子どもたちにも利用しやすく、区民が企画した事業にも活用できるスペースがあるかなどを具体的に検討しながら、区民に開かれた区役所づくりを考えました。

このワークショップで挙げられたアイディアや意見を、具体的にどう盛り込んでいくかは、今後残された課題となります。

エ　自然文化部会

自然文化部会は、文化・スポーツ、環境、空家対策分野を所管する部会です。

（ア）　北区の潟の魅力発信事業

福島潟のラムサール条約登録に向けて、区民の理解を深め、水辺環境の保全と活用を図るため、大熊孝新潟大学名誉教授を講師として、自治会長向けの講演会を開催しました。また約 20 年更新されていなかった、水の駅「ビュー福島潟」の展示をリニューアルするとともに、区内のさまざまな水辺を紹介する「北区の水辺マップ」を発行し、区内外に北区の水辺の魅力を発信

しました。

引き続き魅力を発信していく必要があるため、同様の事業を次年度も行うこととしました。

（イ） 福島潟の魅力発信事業

豊かな自然環境の活用と健康増進につながる方策を考えるため、部会の研修として、改修工事が進む福島潟や、新潟医療福祉大学構内外を見学しました。

また、河童の目線から、自然の豊かさに気づいてもらおうと、福島潟に棲む河童が主人公のファンタジー『河童のユウタの冒険』（斎藤惇夫著）に着目し、挿絵作家が描いた「ユウタの棲家」の絵を大きく引き伸ばしたタペストリーを制作・展示しました。原画も展示できるようにし、水の駅「ビュー福島潟」の展示をさらに充実させました。併せて、ラムサール条約やその理念についての理解を深めるための啓発パネルやパンフレットを作成し、展示、配布しました。

継続的に、より広く福島潟の魅力を発信していくことが今後の課題です。

3 おわりに

第６期を振り返り、委員から全体会について、報告事項が多く、人数も多いため意見が出しにくい、発言する委員の偏りをなくす方法はないか、もっと掘り下げて議論する会議にできないか、女性委員や、子育て世代委員を増やし、幅広い世代から意見を求めてはどうかなどさまざまな課題が寄せられました。

また、部会については、委員を固定せず、他の部会への参加を可能にしてはどうか、各部会に所属する委員の男女比の偏りをなくす工夫ができないかなどの課題が寄せられました。

寄せられた課題を踏まえ、さらに全体会や部会での議論を活発化するためには、運営について検討を続ける必要があります。併せて、区の地域課題についてより未来を見据えた本質的な議論ができるよう、審議テーマや取り組む事業の絞り込みを図ることも必要です。

北区の実情に合った区自治協議会とはどういったものか、これまでつくり上げてきた協働の形を、これまで以上に北区の特長を活かし、立ち止まらずに進化させていく第７期区自治協議会となることを期待しています。